

## 原文

指摘事由

「紅茶と砂糖」、「コーヒーハウス」の関係が整理されておらず理解し難い表現である。

### 紅茶と砂糖——上流階級のステータス

17世紀以降、ヨーロッパで飲まれるようになった砂糖入りの紅茶は、上流社会のステータスとなった。イギリスではピューリタン革命のころからコーヒーハウスが都市に生まれ、ここでの商品もコーヒーから紅茶に移りかわっていった。コーヒーハウスは、発行部数の少なかった雑誌・新聞を回覧し、新しい政治や文化を語りあう場となった。なお、砂糖入り紅茶は、産業革命期には労働者の生活にもひろがり、簡単な昼食の栄養補給源となった。



た雑誌・新聞を回覧し、新しい政治や文化を語りあう場となった。なお、砂糖入り紅茶は、産業革命期には労働者の生活にもひろがり、簡単な昼食の栄養補給源となった。

◀コーヒーハウス

## 修正文

### 紅茶と砂糖——上流階級から労働者へ

○茶や砂糖は、16世紀までのヨーロッパでは、海外から運ばれてくる貴重な「薬品」であった。しかし17世紀後半からイギリスは、中国産の茶を大量に輸入しはじめ、これにアメリカからの砂糖を入れて飲むことが、上流社会のステータス=シンボルとなって大流行した。やがて

値段の下がった産業革命のころになると、砂糖入り紅茶が、労働者たちの簡便な食事の栄養源になった。イギリスの植民地進出の動機の一つには、こうした茶と砂糖への欲望があったのである。



◀上流階級のティー=パーティ

18世紀前半。